

て植付の途を得しにもかゝらず現今は彼地の林木を伐採する事多量にして比較的植林事業の如く伐採するや否や跡地に造林する反対に伐採跡地をば長年月放置して雜草灌木等を妄りに生せしめ敢て願ざるは如何なる故か他にあらず要するに森林思想の發達尙幼稚なるに依るならんか。殊に特筆すべきは彼地の養蠶製糸の業大いに發展せるが故に伐採跡地は勿論伐採して迄も開墾して桑畠となし以つて蠶兒の飼料に供する次第にして其面積たるや實に廣大にして前記の以外に如何なる山奥とても苟も平坦なる原野たるからは必ず行きて開墾するの有様にして森林荒廢は愚か林地を縮少するの一大原因なり。

次に林木の伐採過量は如何なる原因に基かうは即ち諭訪方面に於て一般に薪炭材の欠乏に基くと斷言するも敢て過言にあらざる可し、何となれば其伐採する樹種の多くは赤松等の二十年生位のもの及び檜、クヌギ等の雜木にある点より推察するを得可し。然して彼地方の薪炭材の欠乏の原因の著大なる實例としては今日は多く石炭を使用するも以前は製糸事業には前記樹種の割木を使用し供給は諭訪地方のみにては不足せずを以つて遠く南安方面に迄も供給を仰ぎつゝありしなり。

如斯く薪炭材の欠乏は遂に森林の過伐を促すに至れり、之れ實に諭訪方面の山野一体を荒廢せしめたるに多大の影響を及ぼしたる一大原因なりとす。然れども其跡地に直ちに苗を植栽したらんには或は以つて彼の地の森林衰亡の恐れを未前に於て防ぐ事を待たらんか。

右の如き状態なれば一般民家の薪炭材を得て却て大林區署長の補佐員たるに過ぎず謂ふべし。

四十年後於ける我校演習林が林價算法上如何なる利益を得るやを御紹介申さん。我校演習林面積は約百町歩なるが此中林道岩石地沼澤地等のために實際造林面積は八十町歩として算すべし。而して現今我國の利率は四五分なれども今茲には年三分の利率を有する資本を以て演習林を經營せむとす、我校にては毎年二町歩づの造林をなす故に八十町歩の面積には四十年後に於いて全部植付を終るものとす、樹種は一部落葉松等を植付けたれども大部分は檜なり。費用は地拵費として一町歩につき三厘五毛位となり。苗木代は例年の價格にて三厘五毛位となし。一町六千本を植栽するものとす他の苗木は補植のもの不良のもの等にて先苗不購入費を金三拾圓（苗木補植の植苗其植付費とも）植付費は普通にて一人一日四百本を植栽すとせば一町歩に十五日を要す而して一日の賃金を假に四十錢とせば植付費にては

第十號 第九林蘇友

(四)

を實質上より觀るときは監査員にあらずして却て大林區署長の補佐員たるに過ぎず謂ふべし。國有林以外の森林に對する監督は獎勵事務と共に普通の地方行政廳に於て之を掌り、此制度は蓋合理的なりと雖監督員たる當局技術の位置確實ならず職員亦大に不足にして未だ容易に監督の目的を達すべくもあらず予は少くとも地力官制中に林務技師を加へ事務官と同じく其俸給全部を國庫支辨とする必要を説くものなり（つづく）

我校演習林の價值

小羽根

即ち一万二千九百六十八圓八十錢の經費を要するなり。

0.03

S = 172 × (1.03)

即ち一万二千九百六十八圓八十錢の經費を要するなり。

即ち四万五千尺²を得へし、是れに一尺²の價格四圓を乗する時は總収入十六萬四千圓等差級數の式によりて左に算出せらる。而して檜一尺²の四十年後の値を四圓とす又年々生長する量は一町歩に付き二十五尺と假定すれば四十年後に於ける材積总量は

一町歩を造林すれば此地多く立木ありて加ふるに岩石地なれば刈り拂ひ取りかたつけ等に多くの労力と多くの時日を要すればなり。

苗木代は例年の價格にて三厘五毛位となし。一町六千本を植栽するものとす他の苗木は檜なり。費用は地拵費として一町歩につき三厘五毛位となし。然れども演習林地は全部福島町の所有なり故に収入を得たる時は其収入の二分の一を福島町に出すべき約束なるにより我校の収入は八万二千圓なり而して前費用一萬二千圓九百六十八圓八十錢を差引く時は我校の純収入六萬九千三十一圓二十錢を得べし。

附 林地に對する租稅は福島町に於いて

收取むるを以て我校に關係なし。

四十年後に於ける利益既にかくの如し故に以上記せし所にて林業が如何に利益多き事業なるかを知り得べし故に八十年乃至百年

立ん事を望む次第なり（終り）

六圓を要すべし。以上費用を改めて明かに而して此八十六圓は一町歩の造林費なるにより毎年二町歩を造林すれば此二倍即ち百七十二圓を四十年間毎年出すものなり。

四十年後に於ける費用總額は復利算を要するを以て有限連年收入の前價式によりて左の如く求め得べし。

岐蘇林友

第十九號

第十九號

岐蘇林友

(七)

億劫にも思はれて自然等閑に附せらるゝことあるものもあらん亦數十年を経過せざれば纏りたる收入無き(間伐等の前收入はあれど)を程遠しとと思ふなるべし、斯くて何時植うる時も無くして過ぎぬるなり、斯かる状況にあるもの獨り我郷里のみにあらざらむ歟斯くの如き有様にて日を経、年を閱するに隨ひて土砂崩壊して禿山生じ強雨一度至れば忽ち洪水氾濫して農地を流し家を奪ひ人畜を屠るの悲惨醜さるるに至るなり。△青年團の植林此に於て余は此の如き山地に植林するに其地方青年團の力を藉るこの最得策なるを感じざるを得ず。

一町若しくは一村の青年團が其町村に在る個人所有の山地を借り受け一括して之に適當の樹種を植付くるとせんか、規模大なるが故に苗木を求むるに便にして且比較的廉價に良苗を得べく植付及下刈等は團員舉りて之に當らば各人年に數日の勞力を費せば數年にして僅少の造林費を以て優に數十町歩の造林を爲し能ふべし、又間伐枝打等團員の手によりて行ふ故に手入費も要せざるなり、斯くして其後輩をして保護經營を受け繼がしめなば僅少の資本を以て甚大の基本財産を形成するに至るべし、既にして伐期に達すれば伐期收入を得べく其若干割を借地料として地主に支拂ふとせば地主は不生産的の山地よりして收入を得る譯なり所謂一舉兩得の策たらすんばあらず、杉の如き樹種に在りては三四十年にして伐期收入を得らるゝなり、而して將來に於て法正林成立の曉には其收入を以て青年團として一町村否社會の公益事業を起すの資に當つるを得べし、國家の隆盛を期するには青年の活動に待たざるべからざるなり、社會處青年の割れ目等に結繩するにより之を壓殺すべし。

四 梅雨に際し苗圃及林道溝渠の排水に注意すべし

五 落葉松葉蜂現出す注意すべし

六 樹毛蟲蛹化するが故に其結繩を壓殺すべし

一 皮付の儘造材したる杉丸太は入梅の候に於て蟲害を受くること多し注意を要す

二 引續き運材をなすべきも農繁時にして灌漑の必要上谷川を堰き止むる地方に於ては木材の川流をなすことを得ず

三 北陸地方に於ては本月上旬より上旬まで漆の返搔をなす(東北地方に於ては半夏生頃即ち七月上旬より秋の彼岸即ち九月下旬まで返漆を探集す)

四 秋田地方に於ては食用として根曲竹の緒を採取す

持の竹株は十年にして繁り十年持の竹株は一年にして繁ると

三 目黒附近の江南林に於ては新竹の下枝二階位の剥離したるを俟ち幹を振動して其十二三節より上部を折り根の發育を完全ならしむ

一 江南竹苦竹淡竹の類は其林内の新竹に一々年度を記入し置くべし左すれば伐採の節頗る便利を得るものなり

保 護

一 梅雨に際し苗圃及林道溝渠の排水に注意すべし

二 出水の爲め道路破損し堤防決潰するこあり可成速に修繕すべし

三 松毛蟲本月より七月迄葉間又は樹皮の割れ目等に結繩するが故に其結繩を壓殺すべし

利 用

一 皮付の儘造材したる杉丸太は入梅の候に於て蟲害を受くること多し注意を要す

二 引續き運材をなすべきも農繁時にして灌漑の必要上谷川を堰き止むる地方に於ては木材の川流をなすことを得ず

三 北陸地方に於ては本月上旬より上旬まで漆の返搔をなす(東北地方に於ては半夏生頃即ち七月上旬より秋の彼岸即ち九月下旬まで返漆を探集す)

四 秋田地方に於ては食用として根曲竹の緒を採取す

活動を期待するものにして青年は之に副ふることを勉むべきなり此点より見るも青年團の植林は必要なるを認むるなり。

我國林業地として名高き吉野地方にては從來借地林業行はれ居りて他地方の資本家が

借地料を支拂ひて此地の地主より林地を借

り受け之に植林して山守を置きて保護管理

せしめ以て經營しつゝあり借地料は普通木

一代一萬本植(約一町歩)三十圓位なりと云ふ、團體組織にして經營するは困難なるが如けれど適當の方法を以てすれば充分行ひ得べきなり、春秋に富める青年の奮勵すべき處ならずして何ぞ。

△近時何々紀念林として青年團等の植林各地に行はるゝは大に喜ぶべき傾向なり、

然るに余は嘗て某地一青年團員より聞きしことあり曰く『我村にて數年前紀念林とし

て三部落共同して植林せしことあり其後下草の刈拂もせず放置しありし爲め今日にて

は林木は雜草に抑壓せられて見る影も無き姿にあり』と、凡う林木は植付の年の夏より二三年間は下刈を爲すを要し十年内外を

経るに至れば間伐枝打等の手入を爲さざるべからず、保護撫育を爲さざれば折角の植木も効を奏せざるなり、林業の如き成果を永遠に期する事業は特に龍頭蛇尾に終るなからんことを要す。

△要するに、林業は將來有望なる上に國土保安上緊要なる事業なれば今日徒らに無立木地を放置するの時にあらず、而して植林經營を爲すには青年團最も適當にして其の力に待たざるべからざるなり、起て青年諸君!

拔萃

雜

一 日本海に注ぐ水流に於ては本月末日迄小鯥の漁獲を禁止せり

二 雁類は北地に於て本月頃産卵す

木材紙料製造業

北米合衆國に於ける製紙業の發達は極めて急激にして今や世界第一の製紙國たると共に世界第一の紙の消費國なり千八百十年に於ては各洲内既に百八十五ヶ所の製紙工場を見たり然れども之れ等は皆檻模製の手漉なりしを以て其規模甚た小なりき千八百四十五年以後機械的及化學的木紙料の發見あるや

国内富饒の天然林を利用し其製紙業は忽に四割に上れり合衆國が其製紙を初めて他國へ輸出せしは千八百廿六年なるが同年の輸出額は約四萬弗なりしが千八百五十六年に二十萬弗千八百八十六年には百十萬弗となり千九百八年には八百万弗を超過せり

而して此等多額の原料は近來木材紙料に移り從て製紙の主產地は専ら『スブルースヘムロック』林豊富にして且水力利用に便なる地方に移轉せり即ち北方のノイン及ニーヨルク州の北部に大規模の製紙工場頻りに起り北進して紙料の製造は漸次木材豊富な

片にして單に木質細片たるに過ぎざるを以

て弱く且搦合性に乏しく單獨に紙層を構成すること能はず因て普通長纖維の紙料を交へて抄造す其品質劣等なるを以て上等紙に使用すること能はざるも代價頗る廉なり亞硫酸及曹達木紙料は重亞硫酸石灰液又は苛性曹達液を以て木材實質を蒸煮し其纖維素を抽出せるものにして概して纖維長く且不純物を含まず頗る良好なる紙料たり之れ等と同屬にして其性質も畧同一なり合衆國に於ける紙料木材中最重なるものなり其分佈極めて廣く合衆國北部より加奈太『アラヌカ』地方に亘り太西洋太平洋を連ね樹高五百呎幹徑三四呎に達するものあり堀り取り枝四五階を残して幹梢を切り去り以て移植するに在り古諺に云一人

(四)『ドグラスツガ』吾國の『トガサハラ』

同屬にして、ヨツキー山脈より北方英領コロ

ンビヤ州に至る太平洋沿岸諸州に產す樹

(五)『ホワイトペイン』吾國の松と同屬に

て北部は『ニューポンドラン』『クエーベック』湖水諸州西及南部は『ミネソダ』『アイヲワ』東部太平洋沿岸一帶の地に產す樹

高二百呎幹徑三乃至五呎に達す

(六)『ボブラー』吾國の『ヤマナラシ』と同屬にして分布極めて廣く北は『アラスカ』より

南『カリホルニア』『ニューメキシコ』に至る

間太平太西兩洋に通じ至る所に產す樹高九

十呎幹徑三呎に達するものあり

(七)『タマラック』吾國の落葉松と同屬にし

林業年中行事(續)

内業 前月に同し 六月

一 除草を怠るべからず殊に播種床に於て然りとす元來苗圃手入の要は斷じ循環除草を行ひ草類をして發生する暇なからしむるに在り故に俗に常に草を追ひ決して草に追はるゝ勿れと云へり斯くせば其結果は却て費用少くして

苗圃をなすして何ぞ。

二 可成曇天降雨前又は細雨の日を選み施肥をなすべし

三 梅雨中は苗木の成育上日除けを取拂ひ置くを得策とす然らざれば陽光不足の爲め苗木過長薄弱となることあり

四 常綠闊葉樹並針葉樹類の插木をなすを追ひ決して草に追はるゝ勿れと云へり斯くせば其結果は却て費用少くして苗木の生長良好なるものなり

五 除草を怠るべからず殊に播種床に於て然りとす元來苗圃手入の要は断じ循環除草を行ひ草類をして發生する暇なからしむるに在り故に俗に常に草を追ひ決して草に追はるゝ勿れと云へり斯くせば其結果は却て費用少くして

苗圃をなすして何ぞ。

一 造林地の下刈を始むべし即ち溪間其他荆棘雜草の繁茂甚しき所より順次着手し夏季中二回下刈を要すべき箇所に於ては可成本月中に第一回刈を終るべき箇所にてして下刈の目的は力めて低く荆棘雜草を刈り拂ひて苗木の被壓を防ぎ之れを地面に撒布し置き其儘腐朽せしめて苗木の肥料となすにあり

二 竹類は本月に至りて筍の生長して篠手し夏季中二回下刈を要すべき箇所に於ては可成本月中に第一回刈を終るべき箇所にてして下刈の目的は力めて低く荆棘雜草を刈り拂ひて苗木の被壓を防ぎ之れを地面に撒布し置き其儘腐朽せしめて苗木の肥料となすにあり

三 梅雨中は苗木の成育上日除けを取拂ひ置くを得策とす然らざれば陽光不足の爲め苗木過長薄弱となることあり

四 常綠闊葉樹並針葉樹類の插木をなすを追ひ決して草に追はるゝ勿れと云へり斯くせば其結果は却て費用少くして苗木の生長良好なるものなり

我徒の本領 文苑

西 野 入 德

(二)曹達木紙料製造 木材取扱に對する豫
準作業は前法と全く同様なり只此場合は除
節を完全にするを要せず蓋し薬液激烈なる
を以て不純物は良く分解して後に捕節機に
依り容易に除去し得べければなり蒸煮罐の
構造も前者と畧同一なり蒸煮の方は單純
にして適度の苛性曹達溶液を加へ之に蒸氣
を通じ一定時間蒸煮を繼續す而して出來上
りし蒸煮物を排出函内に噴出せしめ 液を
滴下して後可成的小量の熱湯又は冷水を用
ひて充分に洗滌し此等の洗液を集めて曹達
回収装置に流送す原質は尙完全に洗滌して
後漂白粉溶液を用ひて漂白し更に洗て之を
捕節機に通じ最後に漉取機にかけて水分を
脱出す曹達法に依る纖維紙料の生成高は亞
硫酸法のものに比れば二三割少なし蓋し薬
剤強くして多少纖維素を溶解するに基因す
去れども漂白は極めて容易にして漂白粉用
量從て少し、曹達木紙料を亞硫酸のものに
比較するに其品質著しく異なり前者は柔軟
にして遊離状に叩解し得べく後者は硬く強
靭なり曹達法にては高價の苛性曹達を多量
に使用するを以て蒸煮排出液中より之を回
収複用せざるべからず從て其装置に巨額の
資本を要し延て該術をして冷々世に擴張す
るを難からしむ

たり李兵衛を太吾作にして太吾作を李兵衛にしたりする様な事をして人をインチヤントする詎術は知らない其代り春は花咲き秋は登る事を知るが故に吾等は春になると木を植え秋になると實を集むる三角形の内角の和は二直角なる事を知るが故に之に依て測量もすれば計算もする敢てニウトンの引力説を聞かなくとも山の上から石を轉がすと谷へ向づてころん／＼と落ち行く事を知るが故に吾人は此事實を應用して伐木もすれば運材もする

乞食の子も三年経てば三つになる事を知るが故に百年後の収益が果して豫期の如くなるや否やと取越し苦勞する事を止めて安んじて植林に全力を盡す

我輩は學者ではない鷄犬の聲も知らない深山幽谷の樵夫である故に倫理學とはどんなものやら哲學とは何の事やら一向知らなければ其櫻花國の責任ある平民たるの自覺と萬物の靈長たる人類の尊貴とを解するが故に之にれ依つて吾人は大に自重する。

吾等は黙々たる山と潺々たる谷との間に人を爲るが故に至つて撲呐であるけれども、口に蜜持つ蜂は尻に針ある事は知るが故に吾人は仁少き好言と令色とは之れを卑下して撲素なる直言を貴ぶ。

又かゝる蜜共の集る所には華麗なる花の下に恐るしき刺を隠す薔薇や七重八重花は咲け共結ぶ實とては更になき山吹のたぐい多き世に春は百花に先んじて吾等に芳香を送り夏は又水々しい果實を以て吾人を喜ばす

權現瀧の春

る梅の如きもあるを知るが故に吾人は此世に就いて決して失望しないたゞへ世は僞善者と才子の跋扈する處となり額に汗する吾等樵夫は馬鹿と云はれ様が様の下の力持とならうがろんな事には毛頭頓首するに及ばない唯一生懸命に種を蒔いて木を植えればそれでよいのである

木節部腐蝕部等を除去する等の豫備作業を施すを普通とするも往々にして此等の作業中の或部を省略することあり剥皮機は一つ直立回轉圓盤面に輻射狀に少しく偏斜して四個の刃を鉗付けにしたものにして木片を横に此圓盤に添へて厭着し外皮を剥ぐ鋸斷機としては多く圓鋸機を用ふ此機には定鋸式と動鋸式とあり前者は短材を切斷するに適し後者は長材を切るに便なり縦削機は上下に滑動する重き鐵棒尖端の下に木材を縦に當て任意に割裂する裝置にして此機に水平の方向に動して割裂するものあり除節は鑿孔機を以て行ふ此の如くして準備作業を終へたる木材片は之を碎木機にかけて碎漬す
碎木機とは一の圓盤狀磨碎石の圓周に沿つて數個の挿材函存在し此函内に木片を填充して或機構によりて之を石面に壓着し同時に多少の水を給し而して其石を軸によりて一分間百十乃至二百四十回の速度を以て旋轉し木質を磨碎摺漬する機械なり此運轉は何れも水力に依れり普通磨碎石の直徑五十五乃至十噸に達す合衆國にては壓碎には給水を少くして紙料を高熱濃厚ならしめ所謂熱碎を行ふ熱碎は冷碎に比して其生産量多きのみならず其品質柔軟にして長きものを得るの利ありて、碎木機より出で来る鱗状原質は之を選別機にかけ篩分けて其粗大不良のものを摘去す選別機を通過せる原質は脱水装置により水の多分を脱却す
(二)亞硫酸木紙料製造 木材の運搬裝置剝皮鋸斷縦割除節等の豫備作業は機械的木紙料の場合と同様なり只亞硫酸及曹達木材料

の場合にありては蒸煮罐に入る前之を分片となし更に節部腐蝕部等の不純物を除去して之を精選す、蒸煮液は専ら重亞硫酸石灰液を用ふ蓋し木紙料の名稱は之れに由来するものとす、木材小片材は之を蒸煮罐内に投じ蒸煮液を加へ蒸氣を通して木質中の非纖維物を溶解し去り纖維のみを摘出するなり罐には直立横置の兩式廻轉固定の二様ある現今多くは直立固定式を採用し急速蒸煮法を用ふるが如し、罐内にて蒸煮を終らば直ちに蒸氣壓力を用ひて一時に溜函内に噴出せしむ此際蒸煮物は碎潰し結束は自ら分解す仍て之を溜函内に於て洗滌し更に他の洗滌器に依り完全に洗ひ後廻轉圓筒式捕節機により良纖維分を擇別して之を濾取機にかけて脱水せしむ、蒸煮液蒸煮法及蒸煮後の取扱如何により其製品に著しき相異を來すものなり故に各工場各之を秘密にしが研究改良をなしつつあり米國に於ける操業の模様を察するに作業速にして且つ効力を要する事少く裝置簡單にして操作又容易なる也其製品の取扱少しく粗略に傾き不純物混交の恐あり亞硫酸木紙料には漂白未漂白とあり未漂白紙料とは遊離酸多き比較的強度の薬剤を用ひて急速に蒸煮し且之を漂白せざるものにして漂白紙料とは遊離酸の比較的多からざる液を以て長時間に柔軟に蒸煮せるものを直に多量の漂白粉溶液を以て漂白せるものなりとす、亞硫酸法は曹達法に比れば藥液激烈ならざる故纖維を傷むること無く且其成長量多く又薬品廉にして回収等に投資を要せざるを以て本法の開始せられし以來未だ三十年に達せざるに世界到る所に行はれ三法中最も盛大なる

岐林蘇友

第十九號

(一十)

飽かぬ眺めに心残しつゝ歸途につく、去年のまゝなる落葉靴を埋むる所カサ（）と音して歩みの數を知らしめつゝ見る一個のリンゴ食ひさしのまゝ捨てられたるを『オ、余等の先に昨日か今日か瀧を音づれし人ありしと見ゆ』人の行き來少なき山路なれば、かかる物にても、其人々の面影忍ばれて懷し、紅葉ヶ岡の手前にて、薪拾ふなる賤の乙女友達なるか將た同胞なるか、さも樂し氣に語らひつゝ登り来るに遇ふ可受らしき犬さへ連立てり、少女等が戯れに石をなげ下せば、犬は石を追ひて飛び下り、躍り狂ひ獲物を捕ふる狀にさも似たり、かくの如き兒戯にも長閑なる春は知られず、二本三本咲き盛りたる山櫻朝日にあらねど、月の光りに花の匂ひ香しく我等の行を迎送せり、余福島に寓する事二ヶ年余、權現瀧の名を聞きし事、あまた度然れども之れを實際に観たる今日を以て始めとなす、此行連れに親愛なるM君あり、加ふるに天候殊に清朗日頃の望を全うしたるは誠に以て幸とする處、飛泉奔瀧の有様今尙目前に髣髴たり

在する事二日再び名古屋に戻り一泊して歸校する豫定なり

脩學旅行 芦井史生
待ちに待ちたる本校修學旅行も愈々来る二十三日出發と決定

三學生は恒例の通り關東方面なり江畠倉しで静岡に泊し翌朝一番列車にて發し鎌倉長及河野教諭引率の下に名古屋を經て濱松に一泊し三方ヶ原森林及樂器會社等を視察に入り農科大學砲兵工廠及日黑林業試驗所を視察し滞在する事三四日にして日光に向ひ中禪寺よりタセ峠を越え足尾間藤を経て足尾に入り本山の工場及び銀峯小瀧を視察して磯部に出て翌日妙義山に登り横川驛より汽車にて輕井澤に入り一泊し都合約二週間の日程にて歸校する豫定なり

二學生は新家、小松両教諭に引率せられ名古屋を經て奈良に一泊山陵を拜して櫻井大瀧等に各一泊し多武の峰實業學校及び大瀧吉野の森林を視察して下市に入り翌日農林學校を視察して五條より滝車にて高野口に入る翌日高野山に參拜次で九度山官行伐木所を視察し粉川より滝車にて和歌山に至り和歌山より大坂に入り造幣局其他各工場を視察し西京に入る杉林竹林等を視察し滞

る

擧當して常に親切に教導せられ生等一同の敬慕して止まざる處なるに今日を限り本校を去らんとす誠に惜むべし

寄宿寮より
つい先月（十四日）まで淋しい（）と言つた寮も一變して今では却つて騒々しいと思ふようになつて來た。

何分四十名といふ多數の新家族を一時に得たので其『嬉しさ』と『珍しさ』感が交々生じた。又我は彼等の兄であるといふ一種の誇りを覺えた時の愉快さつたら今に尙忘れぬ。

十八日（四月）には十八號にも記載せられて、惜しい事には雨に襲はれて十分餘興を盡しあつた通り金比羅山にて花見會を催したが得なかつた。されば例に依つて西寮の階上拾肆拾伍兩室を會場に充てゝ此に再び盛なる餘興を始めた。

君！君の○談である其他各得意とする新体詩詩吟唱歌舞踏等いづれも拍手喝采を以て迎へられたが其間には新任炊夫の手になつた壽司などが運ばれる皆々舌鼓を打鳴らして散會したのが六時であつた。

圖書室兼娛樂室には毎日大入にて殊にクロックや園基などでいつもバチ（）音がする近來はまた大分金魚が流行し出した、又芳香を放つ奇麗な草花などの机上に飾られてある室も見受られる、

(二十)

になつてやつと辨當持の任務を果したない

教室に列べられた。

福島通信

になつてやつと辦當持の任務を果したない
ご滑稽ながらも又氣の毒であつた。而して
二十一日迄に全部扁柏の植栽を終へた。翌
日から新校舎地の苗圃へ檜苗の移植二十四
日から愈二時間授業実施され二十七日から
實習中の一大事業たる播種に取掛つた之は
各組の分擔事業であるから自然競争を生じ
各々負けじ劣らじと非常に熱心に遣つたの
で殆んど理想的に行つた。組長諸君が顔を
顰めながら臭い肥桶を擔つて來て施肥され
たのは滑稽であつたが又組として嬉しかつ
た。播き付けた樹種は扁柏、楓杉、落葉松
及櫻漆、ヒメコ松、金松等十餘種三日間にて
播種を終へろれから杉苗の移植を行なひ五
月一日新校舎及寄宿舍の周圍に防風兼風致
用として松の大苗を植え付けた、而して實
習は之で千秋樂を告げたのである。此日は
中央線が全通する新築校舎の雨天体操が一
棟建つ愈以て目出度い日である。二日は中
央線全通祝賀會があるので實習慰勞旁臨時
休暇となつた。て朝から停車場へ出掛けて
賑やかな祝賀會に今迄の勞を忘れてしまつ
た。三日から又授業が始まると思つて居る
と又實習だと言ふ夫は當町小野某氏から中
畑の材木跡地に檜杉の植付を依託されたと
のこと我等の手並此所ぞと手に唾つけて一
生懸命に奥の手出して植付けた檜杉合せて
約一万本二日間に植付けた春季實習も今日
を以て全く千秋樂を告げたのである。翌日
から黒い／＼丸で印度人然たる顔が幾つも

教室に列べられた。

存じ候尙一行はステーション内木の曾名産陳列場等を見物し二時半頃夜曾場諏訪へ向けて出發仕り候此日の本町通の模様は山師的夜店的商人の山出人を當込み大道へ陣を敷き居る様及人出の多き事……馬こり居らね七月の馬市の如き有様に御座候山出連殊に滝車様に初見參の連中は腰を抜かして販りし事と存じ候五月に入りては他に御通信申上の様な事も無之候故又いづれ次號にて御目に掛る可く今回は之れにて失禮仕り候

會費領收報告
原大正宮向樞木梨井口下貞治君
七郎君實次郎君嘉一君辰次郎君
原貞清君勇君

三五七
三十

十二錢

原大正宮向樞木梨服仁松中野園
脇又澤井原口下辰嘉實次郎君一衛君
原村科澤部貞治君勇君嘉一君
唉光豐莊太郎君清君也君智君次君